

わが国のナースリー・スクール (第4報)

—保育効果に関する一考察—

小 林 恵 子
国立音楽大学 幼児教育専攻

目的: 第4報では、ナースリー・スクールの保育効果について考察することを目的とした。

方法: 愛恵学園ナースリー・スクール(東京・足立区。1才半以上2才年保育。第1～3報参照)をとりあげ次の3点から考察した。

I 毎年3月に提出する両親の感想文(昭和38～43年度入園)から子供をナースリーに入れてどの様によい点がみられたかを考察した。

II 昭和44年度にナースリーから愛恵学園幼稚園に入園した子供13人と家庭から同幼稚園に入園した子供13人の母親に乳幼児精神発達質問紙(3-ワキ(津守真 磯部景子 大日本図書出版))を渡し記入して貰い比較検討した。

III 愛恵学園幼稚園に長く勤務し毎年ナースリーから入園する幼児を保育しておられる先生に感想を述べて貰った。

結果:

I 両親の感想文から

・感想文を書いた両親(組)の数

年度(昭和)	38年	39	40	41	42	43	計
両親(組)の数	27組	21	21	22	23	24	138

・子供をナースリーに入れてよかった点(数字は組数)

順	よかった点	38年	39	40	41	42	43	計
1	自分の事は自分でしようとする	12	10	13	12	9	9	65
2	よい習慣がついた(手洗う他)	12	13	10	9	9	10	63
3	のびのびと友達と遊ぶ	11	9	7	8	9	11	55
4	友達と仲よく遊べる様になった	7	5	7	7	6	9	41
5	他人への思いやりがでてきた	6	6	5	5	4	4	30
5	自分からすすんでナースリーへいく	8	5	5	3	5	4	30
7	お祈りができる(食前、病氣他)	6	3	5	5	4	5	28
8	ききわけがよくなった	6	6	3	5	4	3	27
9	たくましくなった	5	4	3	3	3	4	22
10	ナースリーでならった歌や遊戯話を楽しんでする	5	4	3	3	3	3	21
11	自分の意志表示がはっきりできる	3	3	4	4	4	2	20
12	生活が規律正しくなった	2	2	4	3	3	4	18
13	丈夫になった	3	2	3	2	3	3	16
14	誰とでも話ができる様になった	2	1	2	1	2	1	9
15	あいさつができる様になった	1	2	1	2	1	1	8
16	嫌いな食物がたべられる様になった	1	1	2	1	1	2	8

感想文の実例をあげる。()は引用した年度

①入園式の朝までかかえて「おしっこ」をさせていたのに1週間もしないうちに1人でさっさとお便所で上手に「おしっこ」する様になった。(昭41)

②玩具で遊んだ後、お片付けの歌を歌って片付ける。(昭・38)

③同年令の友達と遊べる事は、遊び場もなく近所に友達もいない子供にとってどんなに素晴らしい事だったかわからない。(昭・41)

④1人じめにしていた玩具や絵本も「交替ね」と云って自分の後は友達に渡し仲よく遊ぶ。(昭・41)

⑤友達がころんで泣いているのを見て、頭をなぞおとしてやろうとする。(昭・38)

⑤メソメソ泣いてナースリーに行っていた子供がやがて明るく自分から進んで行く様になった。(昭42)

⑦母の病氣をなおして下さいと祈る。(昭・38)

⑧自分の欲求が通らないと大声で泣いて抵抗していたのに今は云ってきかせればちゃんと解し欲望を押えている様子がよくわかる。(昭・43)

⑨ものおじしないでたくましくなった。(昭・38)

⑩「今日はこんな歌を歌ったよ、こんなお話をしたよ」と云って大きな声をだして歌ったりお話をしてくれる。(昭・41)

⑪納得のいかないとき批判する様になった。(昭・40)

⑫ナースリーに行った日は駄菓子を求めることをしなくなった。(昭・40)

⑬よくお医者通いをしていたが ナースリーに入ってからはずつかり丈夫になった。(昭・42)

⑭人見知りをしなくなり誰とでも話をする。(昭・40)

⑮挨拶が自分からできる様になった。(昭・40)

⑯葉っぱを食べなかったのに何でも良くたべる様になった。(昭・43)

II 乳幼児精神発達質問紙(3-ワキ)を用いて

施行日: 昭和44年5月13日

対象: A(ナースリーを卒業した後、幼稚園に入園した子供13人(男6人 女7人)と
B(家庭から入った13人(男6人 女7人)群の母親が記入した。(計26人)

各個人の精神発達指数は年令や家庭環境により各違っているので問題とせず両群が各項目においてどの様な違いがあるかを検討した。家庭環境は次の通りである。

A群 (ナースリーを卒業し入園)				B群 (家庭から入園)			
姓	年令	父の学歴	職業	年令	父の学歴	職業	
1	♀	3才8月	高校	文具店	3才7月	高校	家具製造
2	♀	3才10月	大学	農機具製造	3才7月	専門学校	銀行員
3	♀	4才2月	大学	ダンボール製造	3才8月	大学	会社員
4	♀	4才2月	小学校	工員	4才	旧制中学	電話工事
5	♀	4才3月	大学	書籍販売	4才1月	大学	会社員
6	♀	4才4月	大学	会社員	4才4月	小学校	塗装業
7	♀	4才7月	高校	電設業	5才	高校	食糧品販
8	♂	3才9月	小学校	家屋解体	3才7月	高校	会社員
9	♀	4才	高校	ウェス業	3才10月	高校	会社員
10	♀	4才4月	大学	会社員	3才11月	大学	プログラマー
11	♀	4才5月	中学	会社員	4才1月	大学	税理士
12	♀	4才5月	父(死)	商業	4才5月	大学	産科医
13	♀	4才6月	高校	電設業	4才6月	高校	古織維

A群とB群を乳幼児精神発達質問紙の各項目別に比較し、13人中できると答えた数が両群で3人以上のひらきのある項目をとりあげてみると次の通りである。○の数は項目の配当年令

運動 (4項目)			
	A群	B群	
① スキップを正しくする (54)	7 (人)	2 (人)	
2 ジャンプの上の方まで登る (60)	9	6	
3 たいこ橋の上からぶらさがってとびおりる (78)	4	1	
4 低鉄棒で足をかけてさかさまにぶらさがる (84)	3	0	

探索 (10項目)			
	A群	B群	
5 青木の実やどんぐりを集めて喜ぶ (36) MF	7 (人)	4 (人)	
6 きれいな物を見るときれいだと感じる (36) M	13	10	
⑦ 自分で勝手な歌を考えて歌う (36) MF	5	9	
⑧ 積み木で車庫や線路を作る (36) M (54) F	5	9	
⑨ 友達同士で会話をかわしながら何かをつくる (48) MF	11	7	
10 金太のりを使って簡単な物を作る (54) MF	8	5	
11 「昨日のつうきはよう」といって遊び始める (54) MF	5	8	
⑫ 小さな物を集めてためている (60) M	9	5	
13 地図や地球儀をみる事に興味をもつ (72) M	3	0	
⑭ 絵の具で絵をかく (78) M (72) F	7	2	

社会 (12項目)			
	A群	B群	
15 ままごとで父母・赤んぼ・客などの役をとり、そのつもりになって行動する (36)	12 (人)	9 (人)	
16 子供だけでいろいろな店やをつくり、互いに行き来して売ったり買ったりして遊ぶ (36)	11	8	
⑰ 友達と順番に物を使う (おしり等) (42)	12	7	
⑱ 母親や先生にほめられると、とくにになって説明する (48)	12	8	
19 かくれんぼをして、さがす役とかくれ役とを理解する (48)	10	7	

20 友達を自分で家にきそつてくる (48)	11	7
⑳ 21 自分の作った物や他人の作った物を互いにみせあつたりのどきあつたりする (48)	8	4
22 雷や嵐にもこわがって泣く事はない (54)	12	9
㉑ 23 こんな事ができるかと他の子にじまんする (54)	8	4
24 母親にこじわって自分で友達の家遊びに行く (60)	8	5
㉒ 25 信号をみて正しくわたる (72)	9	4
㉓ 26 2,3人でないは話をする (78)	6	2

生活習慣 (6項目)			
	A群	B群	
27 自分で小便にいき大人の手を殆んどかけない (42) MF	13 (人)	10 (人)	
28 歯をみがき口をすすぐ (48) MF	9	12	
29 食卓で殆んど大人のむ話にならないで食べる (54) M	11	8	
㉔ 30 上衣をひとりで着る (60) M (48) F	13	9	
31 入浴後、体をタオルでふく (60) M (54) F	12	9	
32 気がむくと洋服をぬいだ後きちんとたためる (84) M (78) F	10	7	

言語 (7項目)			
	A群	B群	
33 他の子に「一しうか」ときそいかける (36)	11 (人)	8 (人)	
34 きいていた話かとされそうになると「そうしてどうしたの」ときそくする (42)	12	9	
㉕ 35 絵本をみながら子供同士いろいろの事を話し合う (42)	11	4	
36 みききした事を母親や先生に話をする (42)	12	9	
㉖ 37 経験した事を他の子に話をする (48)	10	5	
38 自分の家の住所番地を正しくいう (60)	1	4	
㉗ 39 幼児語を殆んど使わなくなる (78)	8	3	

(○は5人以上のひらきのあった項目)
(○は4人のひらきのあった項目)

III 愛恵学園幼稚園で10年の間、保育に当たつた主任教師の感想

ナースリースクールを卒業して幼稚園に入つた子供達は、家庭から直接入つた子供達にくらべて人と人のコミュニケーションがスムーズで年長児に対しても自分の立場をはっきり相手に伝えることができる。人と人のまじわりの中でおじしない。新しいものに対しても積極的に体でぶつかつていく。ナースリーから来た子供達は知的な面で教えこまれてはいないが(この点、家庭から直接入つた子供には、字や数など教えこまれてくる子供がみられる)集団の中で人の言っている事をきく力がすぐれており教師のちょっとした助言でもよく受け入れて自分のものとしてこなしていく。自分で学んで成長していく力にすぐれている。

注:愛恵学園ナースリーの保育内容に就ては一甲綱子著「2,3歳の教育、黎明期」拙著「日本におけるナースリースクール」国立音楽大学研究紀要に集を参照して下さい。